



九州支社篇

神々の舞う夜に

古来より伝わる伝統芸能 「高千穂神楽」

高千穂地方に伝承され、重要無形民俗文化財にも指定されている「高千穂の夜神楽」。その起源は神話の世界にさかのぼり、天照大神（アマテラスオオミカミ）が天の岩戸に隠れた際、天照大神を誘い出すために天鈿女命（アメノウズメノミコト）が岩戸の前で面白おかしく舞ったことが始まり。高千穂では古来よりこの神楽を「夜神楽」という形で受け継いできた。夜神楽とは、里ごとに氏神様を神楽宿と呼ばれる民家や公民館にお招きし、夜を徹して三十三番の神楽を「晩かけて奉納する神事。例祭日は集落によつて異なり、毎年11月中旬から翌年2月上旬にかけて町内二十の集落で奉納される。そして、この時期以外にも高千穂の夜神楽を奏しめるよう始まったのが「高千穂神楽」。高千穂神社境内の神楽殿で毎晩20時より1時間、三十三番の神楽のなかから代表的な4番「手力雄の舞」「鈿女の舞」「戸取の舞」「御神体の舞」を公開している。

子供のころから神楽の舞を学び、現在も三田井地区の代表を務める俵さんは貴重な生き証人だ。「私が小学生のころ、農家の長男は学校で神楽の練習をさせられたんです。午前中は勉強、午後は神楽の練習というように。戦争で食糧危機の時代ですから、それ以外の子供はみんな農家の手伝いをやっていたんですよ。そんな時代でも神楽を守ろうとして



三田井地区神楽保存会の俵さん

高千穂唯一の神楽面工房 「天岩戸木彫」

高千穂神楽面は、高千穂の夜神楽に使われる面。幸せを招く縁起物であることから、現在では土産品としても人気を博している。しかし、高千穂町でも面づくりを生業にする工房は風前の灯火。「もはや当工房だけではないでしょうか」と語るのは、神楽面工房「天岩戸木彫」の3代目、工藤浩章さん。地元の神楽面コンテストで優秀賞を受賞した初代、宮崎県の伝統工芸士に認定された2代目から工房を受け継いだ浩章さんは、工藤家の婿養子。自動車整備業を営む実家で整備士として働いていたものの、結婚を機に工房を受け継ぐことを決意。24歳から1年間、北九州の仏像彫刻家のもとで木彫りの基本を学び、25歳から神楽面の製作とともに神楽の舞を学び始めた。



天岩戸木彫3代目 工藤浩章さん



面の製作者自身が神楽を舞うのは歴代でも初。浩章さんは「面の製作に役立つことは大きい」という。「神楽の面は鼻を大きく作るのですが、なぜかわかりますか？理由は、足元を見やすくするためなんです。鼻を大きくすれば鼻の穴も大きくできるので、足元が見やすくなるでしょう。舞台から階段を降りるときに足元を気にし

いたんでしよう。大人になって、神楽を受け継いでいこうと決めたわけですが、最初は悔しい思いもしました。久しぶりに会う同級生は、みんな立派な背広を着込んだビジネスマン。そんな旧友に、時代遅れのヤツだなんて言われてね（笑）。それが今じゃ重要無形民俗文化財ですよ。わからないものですね」。

古来より神事として伝わる神楽ではあるが、高千穂の神楽に堅苦しさはまったくない。クライマックスの「御神体の舞」では演者が客席に降り、おどけて見せ、観客の笑いを誘う。このように神楽が「みんなを楽しむものであり続けるかぎり、伝統の灯が消えることはないだろう」。



演者と観客が一体となって楽しむことも神楽の伝統

〈高千穂神楽の代表的な4番〉

- 手力雄の舞
天照大神が隠れた天の岩戸を探し出すため、力の強い手力雄命（アメノタチカラオノミコト）が静かに音を聞いたり、考えたりする様を表現。
- 鈿女の舞
天の岩戸の場所がわかったので、岩戸の前で面白おかしく舞い、天照大神を岩戸より誘い出そうとする様を表現。
- 戸取の舞
手力雄命が岩戸を取り除き、天照大神を迎え出す様を力強く表現。
- 御神体の舞
イザナギ・イザナミの二神が酒を酌み交わしながら抱擁し、夫婦円満に喜びを分かち合う様を表現。

てうつむいていたのでは格好がつかないですからね。そういった造形の理由も、実際に舞うことで理解できました」。物理的な面だけではない。自ら舞うことで「神楽」という神事の重みを実感したという。「面を付けて舞うと、神様を背負っているような感覚を覚えるんです。背中に重さを感じて、うまい具合に腰が曲がって、さまになる。面を付けていないときはそういう感覚になりません。不思議なものですな」。神楽の精神性に触発され、面の製作においても感覚・感性を重んじる浩章さん。一方で、4代目となる浩章さんの長男、省悟さんの考え方はより現代的。幼いころから家業を継ぐ決意を固めるも、まずは一人の社会人としての修行から始めた。「大分県の会社で働いたり、東京でフリーターをしたり、とにかくいろいろな経験しました。東京に出たばかりのころはとても貧しかったので、リサイクルショップで働きながら家財道具を仕入れ価格で譲ってもらったり（笑）。そして24歳で実家に戻り、父と二人三脚で面と向き合っています」。作り方に決まりはないという神楽面だけに、二人の考え方も対照的。「父が感覚を重視した彫り師とすれば、僕は理論派。たとえば目や眉間を左右対称にするために深さや角度を計測しながら掘りますし、ノミなどの道具も父の何倍も持っています。ノミを研ぐのも、お前の方がうまい」と父から褒められます。「目を細める省悟さん。父と息子。これからのしぎを削りながら、末長く神楽面を伝えていきたい」。



天岩戸木彫4代目 工藤省悟さん



九州支社の私たちがご案内します!
 ビルシステム部 営業第二課 山田淑江
 ビルシステム部 営業技術課 村山祐貴



我が街のご当地自慢

柳川藩主立花邸 御花

柳川下りの終着点が「柳川藩主立花邸 御花」。その名の通り、江戸時代は柳川藩主立花家の邸宅として利用されてきました。明治時代に十四代立花寛治伯爵によって整備され、現在は敷地全体が「立花氏庭園」として柳川の観光スポットとなっています。見どころはなんと、史跡名勝天然記念物に指定される「立花氏庭園」です。約280本のクローマツ、庭石1500個、石灯籠14基が配された鑑賞式の庭園「松濤園」をはじめ、その松濤園を望む1000畳の

水郷柳川の川下り

藩政時代の遺産が息づく柳川は、中心市街地2km、四方60kmにもおよぶ掘割と共生する世界有数の水路の街。約400年前に柳川城を築城するため整備された掘割はもともと生活用水や水上道路として利用されており、明治以降から「どんこ舟」を使った川遊びが盛んに行われるようになったとのこと。現在のように柳川の観光として川下りが楽しめるようになったのは昭和30年ごろからといわれており、現在では年間約30万人の観光客が訪れています。軽妙なトークや舟歌で約4kmの道中を楽しませてくれる船頭さんは、まさにエンターティナー! 途中に水上売店もあるのです。ジュースやお酒、おつまみなどを味わいながら川の流れる身を任せてはいかがでしょうか。

イチオシ柳川グルメ

川下りや立花氏庭園巡りでお腹が空いたら、御花の料亭「集景亭」で名物の「うなぎのセイロ蒸し」を。ふわっとしたうなぎの食感と香ばしいタレのハーモニイは、柳川名物の名に恥じない美味しさです!



うなぎの旨味とタレが染み込んだご飯も最高!

高千穂

神話の世界を訪ねて

1日で回れる!

「高千穂峡」

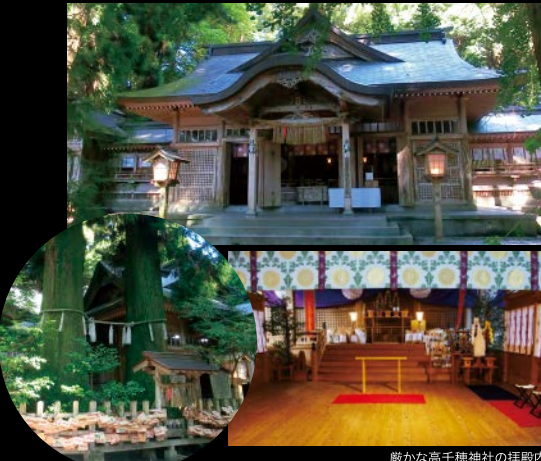
太古の昔、阿蘇山の火山活動によって噴出した火砕流が冷え固まり侵食された断崖がそそり立つ峡谷。高さ80〜100mにも達する断崖が東西に約7キロに渡って続いており、昭和9年には「五箇瀬川峡谷」として国の名勝・天然記念物に、昭和40年には祖母傾国定公園の一部に指定されています。その荘厳な景観を間近で楽しみたい方には、貸しボートもあります。ただし、週末や連休中は非常に混雑するため、なるべく平日がおおすすめです。



五ヶ瀬川と真名井の滝

「高千穂神社」

約1900年前の垂仁天皇時代に創建された、高千穂郷八十八社の総社。主祭神は高千穂皇神と十社大明神で、とくに農産業・厄祓・縁結びの神をして広く信仰を集めています。高千穂皇神は日向三代と配偶神の総称で、十社大明神は三毛入野命をはじめとする10柱を祀っています。本殿は安政7年に再建されており、五間社流造で九州を代表する大規模な本殿として有名です。また、平成16年には国の重要文化財にも指定されています。



本殿の左にそびえる夫婦杉

「荒立神社」

瓊々杵尊(ニギノミコト)が天照大神の命を受けて、の国に降臨される途中で、天孫行の道案内をされた猿田彦命(サルタヒコノミコト)と天鈿女命(アメノウズメノミコト)が結婚して住まわれた地とされ、このような言い伝えから縁結びにご利益があると言われるパワースポット。切り出したばかりの荒木により宮居を造ったため、荒立宮と名付けられたと伝わります。



「穂觸神社」

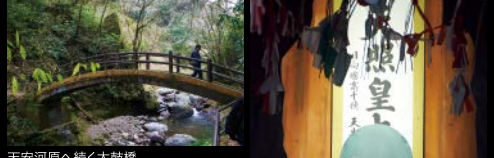
天孫降臨の地として伝えられる穂觸の峯にある神社。古くは「穂觸の峯」を「神体」としてお祀りしており、元禄7年に社殿が建立されました。神社周辺は遊歩道が整備されており、格好の散策スポットとなっています。ちなみに、天孫降臨の際に神社の「祭神でもある武甕槌命(タケミカヅチノミコト)と建御名方命(タケミナカタノミコト)が力比べを行い、それが相撲のルーツとされています。また、神社の約300m南にある「高天原遥拝所」は天孫降臨後、神々が高天原を遥拝したと伝えられている聖地です。



高天原遥拝所

「天岩戸神社」

日本神話の天照大神がお隠れになられた「天岩戸」と呼ばれる洞窟を御神体として祀った、天岩戸神話の舞台となった場所。そんな天岩戸神社の拝殿から10分ほど歩いた場所にあるのが、高千穂でも最もパワーの強いスポットとして知られている「天安河原」です。河原の中央部に「仰慕窟(きょうぼくがいわや)」という小さな鳥居と社が建てられた洞窟があり、この前で石を積みながら祈ると願い事が叶うといわれています。



天安河原へ続く太鼓橋



天安河原の仰慕窟

九州エリアのさらなる発展に貢献できたら幸いです

山田 九州支社に営業として配属されて2年余り。人のあたたかさや食べ物、美味しさには心から感動しています。仕事はどれも印象に残っていますが、某メーカーの工場のセキュリティシステムを受注できたことは、ここへ来て初めての案件だったこともあり忘れられない思い出。これからも全力で頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

村山 九州のお客様は「新しいもの」好きです。技術系の私としてはやりがい溢れる地域です。たとえば、JR博多駅のエスカレーター。コンコース吹き抜けと2階商業フロアを結びエスカレーターが施されており、視覚的にもモチベーションが上がるものとなっています。今後九州地区では天神ビックバンと銘打ち大規模な再開発計画があります。移動手段だけではなく、建物の一部として利用者の皆様がワクワクするような昇降機を提案していきたい。九州に爪あとを残したいと思っております!



JR博多シティ

三菱電機九州支社

歴史に培われた技術を、次の時代のために。

九州支社は当社最初の営業所として昭和21年に開設された、三菱電機社内で最も歴史のある支社です。現在は九州・沖縄8県を営業エリアとし、生活に身近な製品(エレベーター・エスカレーター、大型映像装置、ETC・カーナビなど)から、社会インフラを支える機器(大型発電設備、上下水道設備関連システム、交通機関向け電機品、製造ライン向け設備装置など)まで幅広く対応。お客様の多様なニーズにお応えしています。

福岡県福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル5F) TEL 092-721-2111

私たちに相談ください!

九州地区: 総代理店
 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
 九州支社 昇降機営業部
 〒812-0018 福岡市博多区住吉1-2-25
 (キャナルシティ・ビジネスセンタービル6F)
 TEL 092-272-5305 FAX 092-272-3100

- | | | | | |
|---|---|---|--|--|
| <p>高千穂神社
 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井1037
 TEL 0982-72-2413</p> | <p>天岩戸木彫
 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字岩戸399
 TEL 0982-74-8901</p> | <p>高千穂観光協会^{※1}
 宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井809-1
 TEL 0982-73-1213</p> | <p>水郷柳川観光^{※2}
 福岡県柳川市三橋町下百町1-6
 TEL 0944-73-4343</p> | <p>柳川藩主立花邸 御花
 福岡県柳川市新外町1
 TEL 0944-73-2189</p> |
|---|---|---|--|--|

※1: 高千穂峡貸しボートおよび各神社のお問い合わせ先 ※2: どんこ舟お堀めぐりのお問い合わせ先



管理者が常駐しない
中小規模のビルに最適

三菱電機(株)稲沢製作所
ビルマネジメントシステム部
ソリューション設計課
柴 昇司

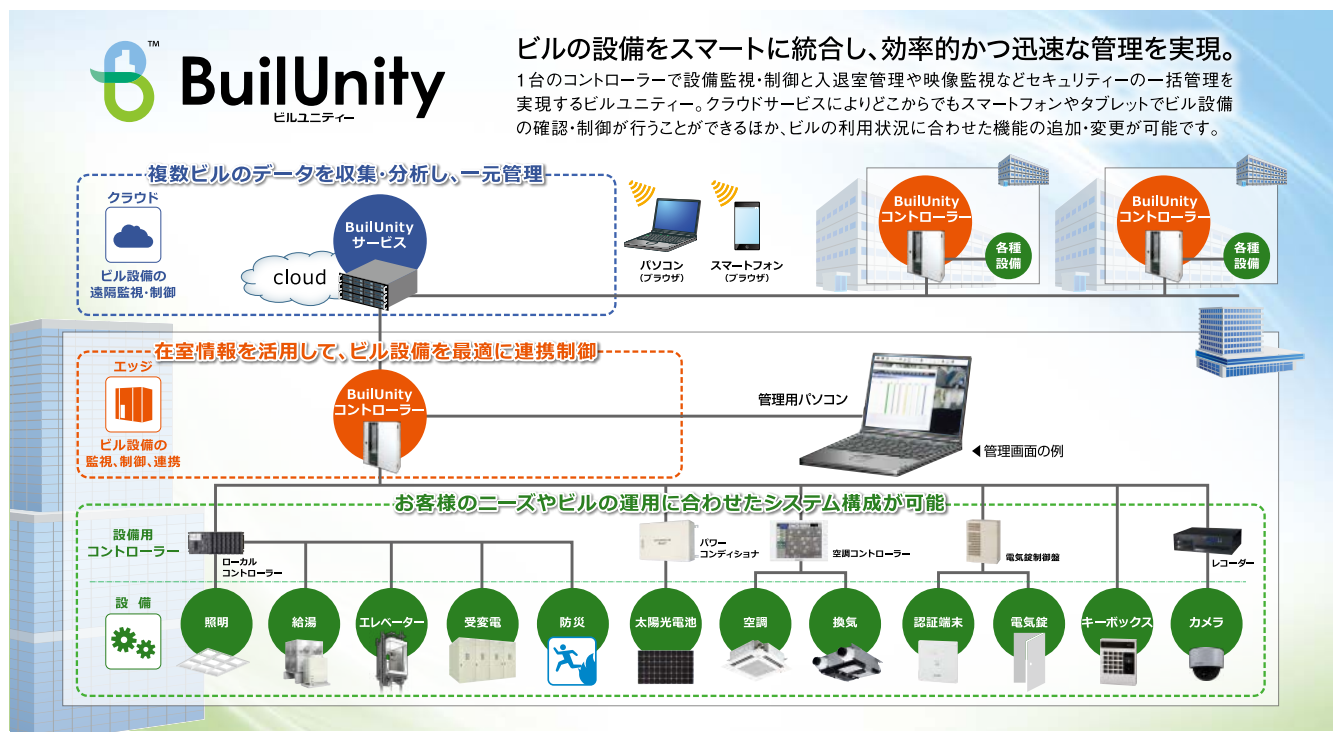
「必ずそこに需要はある」
「外出先からでもビル状況を知りたい」「複数のビルを一元管理したい」というビルオーナーの願い。「いつでもビル設備の異常を知らせてほしい」「電気の消し忘れなどを見回る手間を省きたい」という管理者の思い。そして「営業時間に合わせて空調や照明を設定してほしい」「入室データを利用者の要望。三菱電機のビルマネジメントシステム部門は、かねてよりビルを取り巻く関係者からのさまざまな声が届いていた。そんな願い、想い、要望に応えるため、稲沢製作所のビルマネジメントシステム部においてビル設備の統合管理、というコンセプトを立ち上げたのが2015年4月。三菱ビル統合ソリューション「ビルユニティ」のプロジェクトが産声をあげた。その背景を、プロジェクトリーダーを務めた柴が振り返る。

「大規模なビルでは設備監視や入室管理、カメラの映像監視などを行うシステムが普及していますが、中小規模のビルではあまり普及していません。その理由として、5000㎡ほどのビルであればそれぞれのシステムを導入する必要性がさほど大きくなく、また、そこに投入するコストもなかなか捻出できないという事情があります。そうであるならば、この設備監視・制御、入室管理、映像監視の管理システムをパッケージングし、中小規模のビルに低コストかつ手軽に導入していただくというのがビルユニティのスタートラインでした。」
三菱電機の調査によると、大規模ビルではこれらの管理システムがほとんど導入されている一方で、中小規模のビルでは5%にも満たないことがわかってきた。必ずそこに需要はある——そう判断した開発チームは、柴の言う「5000㎡までのビルをターゲットに定め、開発に臨んだ。」
ここで、今回のプロジェクトのために三菱電機ビルテクノサービスから三菱電機の稲沢製作所へ出向し、システム設計を担当した南田にビルユニティの特長と強みを説明してもらおう。

■展示会で確かな手応え

「ビルユニティを新しいビジネスモデルにするべく、市場からの要求を開発サイドへ伝える橋渡し役となった勝山は、製品としてお客様へ販売する立場からビルユニティの強みをこのように語る。

「スマホやタブレットで、誰でも簡単に操作、設定できることが画期的と考えています。これまでのようにシステムの専門家でなければわからないビルではなく、システムに詳しくないビルオーナー様が自分のスマホでシステムとつながり、複数のビルの状況を一元で知り、さらには制御することができる。非常に画期的なシステムと言えるでしょう。」
スマホで操作できるようにしたのは、勝山がお客様からいただいたこんな言葉も理由のひとつだった。「ビルユニティにはエレベーターとの連携



～ ミッション遂行の軌跡 ～

ビル設備のマネジメントを、スマホでもっとスマートに。
～ BuilUnity (ビルユニティ) ～

スマートフォンがますます高機能になり、数年前には考えられなかったほどの利便性を手中に収めている私たち。そして今、ビル設備のマネジメントもいよいよ「スマート化」しようとしている。それを実現するのが、2017年11月に販売を開始した三菱ビル統合ソリューション『BuilUnity(ビルユニティ)』。立場や部門の垣根を超え、三菱電機がまさに一丸となって開発したまったく新しいソリューションの開発秘話を、4人のキーマンが振り返る。





カタログの内容にも
とことんこだわって

三菱電機(株)
ビル事業部
ビル統合ソリューション企画部 事業推進課
梅田 祐貴

機能も搭載されていますので、あるとき昇降機の特設店を訪ねて製品の説明をさせていただきました。すると、担当の方から「正直、売る気になれない」と言われてしまった。理由は「我々はシステム屋ではないので、管理パソコンでこういう操作をしてください、こういう設定をしてくださいと細かいことを言われても簡単にできるものではない。誰もが操作しやすいものでなければ、お客様に提案することは難しい」というものでした。なるほどと。さまざまな設備が稼働している現場では、三菱電機ビルテクノサービスのフィールドエンジニア以外の人が緊急対応することもあります。そのときに使えないものでは意味がありません。だからこそ、わかりやすいユーザーインターフェースでさまざまな設備と連動できるように、スマホで誰でも操作できるような製品が求められたのです」。

1台のスマホで複数のビルを一元管理——このインパクトは、市場においても絶大だった。入社1年目までのプロジェクトのプロモーション担当という大役を任せられた梅田は、展示会のお客様からの反応に確かな手応えを感じた。

部門間の垣根を超えるなか

「展示会ではビル設備の統合管理やクラウドサービスの導入など、ビルユティリーの基本的な機能を説明させていただいたのですが、やはりスマホで遠隔地から確認操作できることに多くの方が驚かされていたことが印象に残っています。さらに、スマホの画面の視認性の高さや操作性の良さも高く評価され、ビルユティリーに対する自信を深めることができました。また、スマホで操作できる範囲が広いことも注目が集まったポイントです。たとえば、エアコンの制御に関しては電源のオン・オフだけでなく温度設定や運転モードの変更まで行うことができますので、みなさん「ここまでできるのか」と目を見張っていました」。

市場からの期待に応えるだけでなく、期待を超える機能を実現し、展示会でも上々の評価をうけたビルユティリー。しかし、コンセプトが具現化されるまでの道のりは決して平坦ではなかった。開発サイドで社内外合わせて約40名、事業部サイドで約20名にのぼったメンバーのなかでも、プロジェクトリーダーの柴は最も苦労した一人



スマホひとつで誰でも
簡単に使えるように

三菱電機(株) 稲沢製作所
ビルマネジメントシステム部
ソリューション設計課
南田 宗佑

としたことを覚えていました」。技術的な部分での課題も多かった。南田が当初の苦労をこう語る。「機能を統合するといっても、ただ単にくっ付けばいいというものではありません。たとえば設備の監視とカメラの監視はこれまで別々の画面で確認してしまっていたので、これを同一画面にどうやって映すのか、それとも分けるべきなのかといった議論も重ねました。統合という言葉の聞こえはいいけれども、お客様の使い勝手を考えなければ、それこそ使い物になりません。コンセプトである、統合という名のもと、この新しいソリューションはどうあるべきなのか。我々開発チームのメンバーをはじめ、現場のSE、さらには三菱電機

スマートで面白いシステム

お客様の使い勝手という面においては、すでに導入されている既存システムとの互換性にも細心の注意を払った。「新たな顧客を獲得するための新規性も大切ですが、過去に三菱の設備や機器を導入いただいた既存のお客様も守らなければなりません。そして、既存のお客様のビルには、三菱以外の設備も混在しているケースが多々あります。そういった他社製品との互換性を持たせるために、BACnet(バックネット)を経由することで三菱以外の設備も監視制御できる仕組みとしました。限られたリソースのなかで、既存の設備を活かしながらビルユティリーをご活用いただけるよう配慮しています」と話す柴。「システムは納めてからのお付き合いが大切。納めて終わりではない」という三菱電機のDNAは、ビルユティリーにもしっかりと受け継がれている。

ビルユティリーの開発は、3段階のフェーズで進められた。第1フェーズはビル設備の統合。第2フェーズはレ



三菱電機の各部門を
連結させるきっかけに

三菱電機(株)
ビル事業部 ビル計画部
ビルマネジメントシステム企画課
勝山 賀孔

「システム構成図(前ページ図版参照)をご覧いただければわかる通り、ビルユティリーで管理できる設備には非常に多くの機器が含まれます。これは、三菱電機社内において、このプロジェクトに関わる部門が多岐にわたることを意味しているのです。部門間の垣根を超えて機能を統合するというプロジェクトは経験したことがありませんでしたので、それを取りまとめることに当初は苦労しました。それぞれの機能を、それぞれが知っていないといけない——つまり、専門外の技術への理解が求められるわけです。まったく違う部門の技術者が一緒に取り組むことは、想像以上に難しいなと。勝山が領きながらこう続ける。「これまでにないソリューションですので、部門ごとによりたいこと、使いたいものがいろいろあるわけです。その、想いのベクトルを合わせるのが、私にとって最初の仕事だったといえるかもしれません。序盤はそれが思うようにはいかなかった。ある程度ビルユティリーの全体像が見えてきて、稲沢製作所とのコンセンサスが取れたときは心底ホッ

社内からも大きな反響が

ビルユティリーへの反響は社内からも湧き上がった。プロジェクトリーダーの柴には、身内からの問い合わせが殺到したという。「プレスリリースで殺到しているの、コントローラーはどんなスペックなのか」「どういうハードウェアを使っているのか」といった内部からの問い合わせが後を絶ちません。三菱電機においても、インパクトの大きなプロジェクトだったというのを肌で感じています。開発は2018年に入りいよいよクラウドと連携する段階に突入したわけですが、クラウドのアプリを扱うのは初めてであり、そもそも稲沢製作所のビルマネジメントシステム部門としてスマホを扱うソリューションも初めてです。当初はまさに、雲を掴むような手探りの状態でした。そこから問題を切り分けながらひとつひとつ解決し、着実に完成へと近づいています。本リリースした際は市場からの反響はもうろん、社内からの反響も楽しんでいますね」。最後に、4人それぞれのビルユティリーに対する思いと今後のビジョンを語ってもらった。

柴:「先ほども言いました通り、今までスマホでいろいろなデバイスにつながる商材は三菱電機のビルマネジメントシステム部門にありませんでした。ビルユティリーにより今後はお客様への提案の幅が広がりますし、当社の新たな強みになったと自負しています。今後はASEANを中心とした海外展開も視野に入れています。まずは、3年で1000システムという目標を達成しなければと考えているところです。クラウドサービスは今後ますます注目度が高まると思いますので、それを拡充しながらビルマネジメントシステム部門の主軸を担うような製品にしていきたいと思えます。そして、今回の部門の垣根を超えたプロジェクトが、三菱電機グループの総合力をさらに高める礎になれば幸いです」。

南田:「私はこれまで三菱電機ビルテクノサービスで販売や施工の最前線にあり、稲沢製作所へこれやってほしい、あれもやってほしい」と要望する立場でした。ところが今回、開発部門と同じ立場でプロジェクトに携わらせて

いつでも、どこでも、誰でも、 遠隔地からスマートフォンで。

管理している複数ビルの警報や設備状態を一覧で確認することができ、スマートフォンから遠隔で制御することが可能。ビルに管理人を常駐させることなく、スマートなビル管理を実現します。

複数ビル管理

管理している複数ビルの警報や設備状態を一覧で確認でき、各ビルの設備に対しても遠隔で制御が可能です。管理人を常駐させなくても場所を選ばずにビル管理業務が行えます。



複数ビル警報一覧画面

Aビルでは、
設備異常が発生中

Bビルでは、
設備異常が復旧



複数ビル設備状態一覧画面

Aビル2階会議室の
空調は冷房運転中

Bビル1階共用部の
空調の設定温度は24℃



トップ画面

対象ビルの警報や設備状態の確認・制御が可能



対象ビル
警報一覧画面

対象ビル
設備状態一覧画面

*BACnet: A Data Communication Protocol for Building Automation and Control Networks.
国内において、ビル設備のサブシステム間の通信として、一般に広く使用されています。ISO国際標準の規格になっています。

すべての社員とその家族のために、 仕事とともに安心を持続できる社屋へ。

熊本に「わさもん」という言葉があります。意味は「新しいもの好き」。自らを「根っからのわさもんですから」と語る沼田社長。しかし、2018年2月竣工の新社屋に盛り込んだZEBをはじめとする数々の試みは、決して新しさだけを追い求めたものではありません。社員のために、社会のために、会社としてできることを惜しみなく注いだ白鷺電気工業の取り組みをご紹介します。

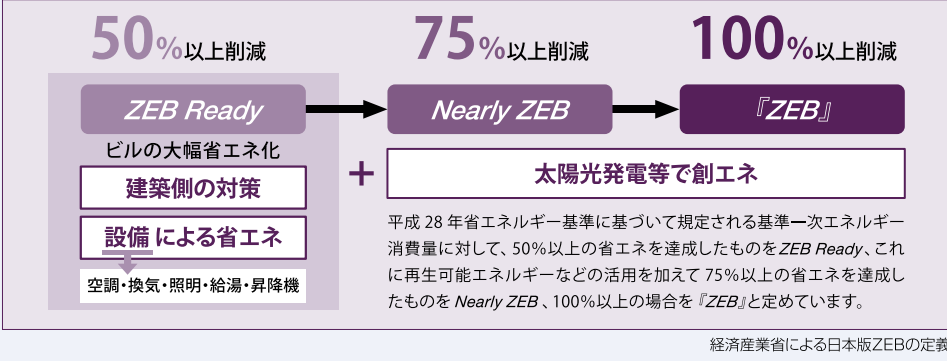
を整えました。また、照明も直流電源対応のLED照明にする。ともに、太陽光発電と蓄電池による創蓄連携システムを組み合わせることで電源変換のロスを削減。さらには地中熱利用換気システムや、遮熱性・断熱性に優れたLow-E複層ガラスを採用することで、基準一次エネルギー削減率74%を実現しています。

環境づくりでいいますと、働き方改革の一環として女性社員の意見も積極的に取り入れながら、ノートパソコンを持ち歩きながらどこでも仕事ができるフリーアドレスエリア、仕事に没頭したいときに利用できる集中エリア、立つても座っても作業できる高さ調整機能付きのデスクを配置したエリアなど、多様性のあるオフィス空間にしています。今後の身体障がい者の方の雇用も見据えた多目的トイレ、エレベーターなども設置しました。

ZEBの先駆者として、さらなる展開に注目が集まります。沼田社長の今後のビジョンをお聞かせください。

今回、電気設備の設計は我々自ら担当したのですが、ZEBをゼロから構築していく経験は私たちにとって貴重な勉強の機会になりました。この経験をお客様への提案に変えて、新たなビジネスを創出していただこうと考えています。また、新社屋には創エネと省エネ

ZEBとは ・平成28年版基準一次エネルギー消費量からの削減率



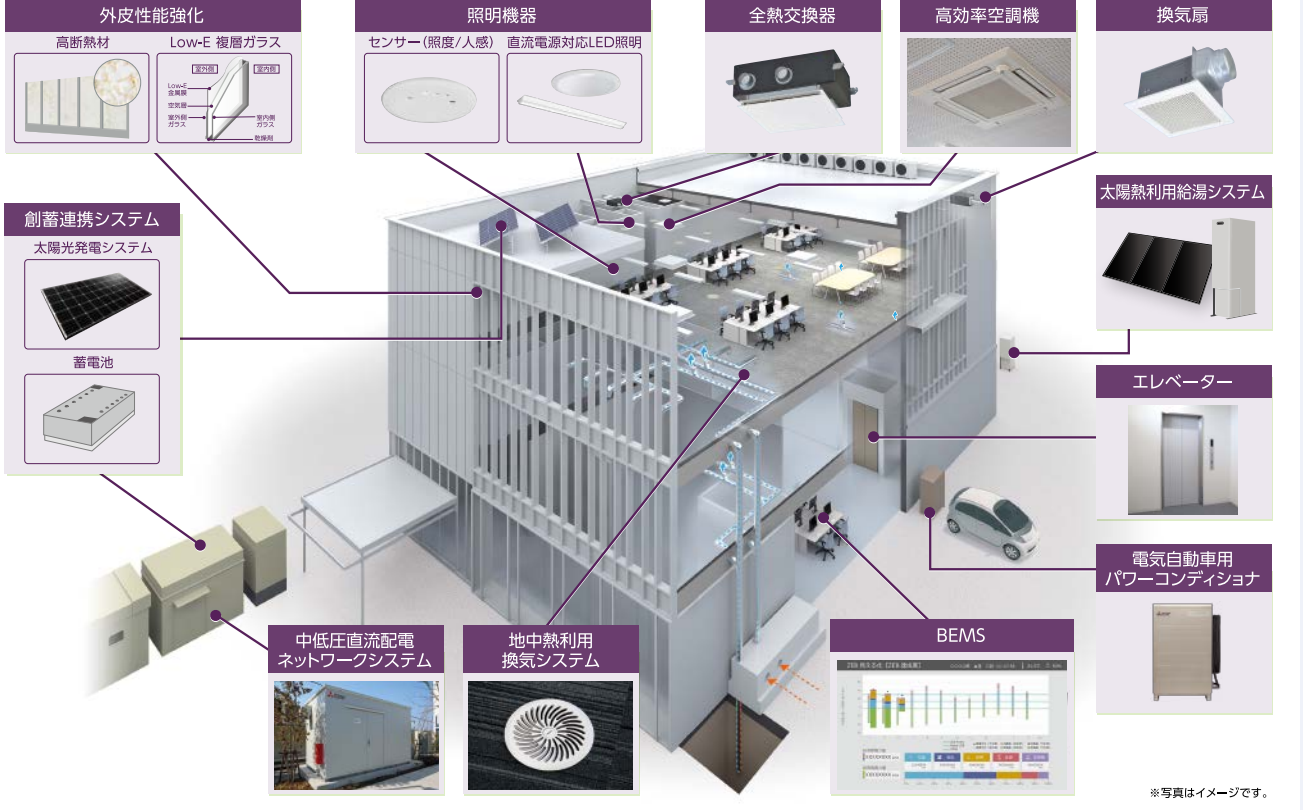
の状況を見える化するBEMSも導入したのですが、いくらエネルギーの使い方を分析できてもPDCAを回していかなければ意味がありません。得られたデータをもとにエネルギー消費量をさらに削減し、いつかはReadyやNearbyが付かない真正正銘の『ZEB』を実現したいですね。



担当者より
三菱電機(株)九州支社 社会システム部 施設課 課長 筒井俊男

沼田社長はZEBをはじめ社会貢献に向けた志の高い方です。ですから九州エリアにおける三菱電機の重要なパートナーとして、これからもご協力いただきたいと思います。私どももBEMSの運用などを通じて、白鷺電気工業様のさらなる省エネをサポートしてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

白鷺電気工業 新社屋に納入した設備・システムの要素



“でんきで広がる楽しい地球。”をキーワードに社会に必要なエネルギー環境を幅広くサポート。

昭和22年2月の創業以来、電気工事会社として熊本県を中心とする地域の電気・電力インフラを支えてきた白鷺電気工業株式会社。「安全を最優先で、高品質な、環境に優しい工事」を理念とし、九州電力をはじめとするクライアントより厚い信頼を得ています。現在は“でんきで広がる楽しい地球。”をキーワードに、電力プラント事業など6つの事業を包括したしらすざぎ電気エネルギー総合システム「SEES(シーズ)」を積極的に推進。現代社会に必要なエネルギー環境を、あらゆる角度からサポートするための体制を整えています。

〒861-8035 熊本市東区御領8丁目3-38
TEL: 096-380-7171 FAX: 096-380-7140
HP: http://www.shirasagidenki.co.jp

今年2月に竣工した新社屋の概要についてお聞かせください。新社屋には3つのコンセプトがあります。それが「災害に強いビル」「ZEBの導入」「働き方改革」とくに注力したのは災害対策です。先の熊本地震では、当社の旧社屋も半壊という大きな被害を受けました。緊急で敷地内にテントを張り、社員が寝泊まりしながら九州電力の変電所や送電鉄塔、通信局舎、信号機などの復旧作業に尽力したのですが、残念ながら社員の家族まで受け入れることはできませんでした。そこで、新社屋は災害時に社員とその家族の避難所として利用できるビルにしよう。耐震の補強により安全を確保し、非常用発電機や水・非常食などの生活物資を常備しています。また、この震災はBCPの重要性を痛感するきっかけにもなりました。

ZEBを検討されたのも、BCP強化の意味合いが強かったのでしょうか？

省エネに加えBCPにも役立つことを知って

じつは震災前から環境負荷の少ないビルへの建て替えを検討しており、ZEBには注目してました。その後、震災を経て新社屋の建設が具体化していくなかでZEBの実証事例をいくつか見学させていただいたのですが、そこで「ZEBはエネルギー消費量を削減するだけでなくBCPにも役立つ」ということを知ったのです。今なら手厚い補助金もありますので、さっそくZEBを積極的に推進している三菱電機に詳しいお話を伺い、導入を決断しました。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長
沼田幸広様

ZEBの実現にともない数々の先端技術を導入されていますが、具体的な設備やシステム、また働きやすい環境づくりで工夫された箇所についてお聞かせください。

ひとつは380V級の直流配電システムです。先端技術を網羅したビルにするならば、ぜひとも導入しよう。直流配電システムに関しては非常用電源として8口のUSBポートを設け、非常時でも携帯電話の充電ができる環境